

の五十%を占めるといふ仮説です。換言すると、十五歳から十八歳までの三年間は、仮に八十歳まで生存した場合には、二十歳から八十歳までの記憶の三倍分記憶されるという計算です。中身の濃い記憶が残ると言っても良いでしょう。

もうひとつ面白いことに気づきました。初対面の同窓生でも親しくなれるのが同窓会であることです。例えば、担任の先生が同じです。ある場合には初対面の同窓生が親しくなる確率が非常に高い事実です。これは言わば「同じ釜の飯を食った仲間」という意識が人に安心感と共有感を与え、生体としての危険性を即座に排除することができるところからであると分析しています。

私は以前からこの「同じ釜の飯を食った仲間」ということを大事にしたいと考えていました。私の先輩方は年齢的にリタイヤした方々も多くいらつしやいます。諸先輩方の中には、ある分野で特化したキャリアや経験をもつていらつしやる方々も数多くいらつしやいます。そのような経験や知識を「同じ釜の飯を食った仲間」で共有することができないかと長年考え

てきました。体力がないために自分では実行できないが、実行できる人たちと有益なノウハウや知識を共有することによって目的を達成するという事です。諸先輩の知恵、知識、経験、ノウハウを生かして後輩が実務をするような仕組みを運営することができないかと思つています。「同じ釜の飯を食った仲間」で、もう一度飯を食おう」という発想です。このような事ができるのは高校の同窓会だからできるのかなとも思つていました。「同窓生の、同窓生による、同窓生のための事業体」を創りたいと考えています。このプロジェクトは「株式会社むさこう」構想として私のライフワークとして取り組みたいと思つています。

同窓会の運営は、各学年から選出される理事によって運営されています。もちろん理事はボランティアです。私は同窓会の理事になることは自分の社会貢献であるという考えです。つまり、同窓生が集うことができる組織を運営することによって母校に対する貢献ができ、また同窓生の役に立つ情報提供や「場」の提供ができると思つています。例えば、母校への貢献

母校「むさこう」在校生の企業研修受入れのお願い 協力企業募集！

同窓会では、母校「むさこう」生徒のキャリアプランを考えるうえで実社会の現場を体験することは非常に有意義であると考えています。昨年度までは、旅行代理店に依頼した企業見学で学校側は対応していましたが、本年度は同窓会会員である皆様方の企業にご協力をいただき、在校生(中学3年生)の企業研修を同窓生の方々に受入れていただき、後輩へのアドバイスや産業の成り立ち、企業活動の仕組みなどをご説明、ご指導いただきたいと企画しています。

企業訪問・研修期間 2009年8月1日～31日の間で都合のつく日程
対象学年：武蔵工業大学付属中学3年生 239名
(企業毎・グループ毎に分散して訪問します)

研修内容：職場見学、職場体験、職業人インタビュー

研修要領：希望職種、希望会社ごとにグループを編成し訪問します。事前に事業環境の調査や産業分析などの準備をして訪問します。

諸先輩方の会社だからできる後輩への説明・解説、仕事の成り立ち等についてお話しください。「むさこう」から立派な社会人を数多く輩出するためにご協力をお願いいたします。ご協力いただける企業の皆様、ご質問、お問合せは：

mail@kiyotokanda.com 090-3236-6394 までお願いいたします。
ご協力いただける企業の方々は4月末までにご連絡ください。

皆様、後輩のために「ひと肌」脱いでください！

「同じ釜の飯」を分かち合ひましょう！

よろしくお願ひいたします。

同窓会会長 21期生(1974年卒業) 神田 清人

という視点では、卒業生の方が社会経験を在校生に話をしたり、講演会の手配等をするのもしていただきます。今期は、在校生の社会経験のための企業訪問を卒業生の会社でできないかと調整中です。いままでの企業見学より一歩踏み込んだ形態の企業訪問を通じて在校生のキャリアプラン考案の一助になればと考えています。同窓会では

同窓生の方々に協力を依頼するとともに、理事会運営をボランティアで手助けして下さる同窓生の方々に随時募集しておりますので、ご興味がある方はご連絡ください。もちろん、今年三月に卒業する最後の「むさこう生」の方々の参加も大歓迎です。

mail@kiyotokanda.com

第 33 回 総会 報告

総会日時 2008(平成 20)年 11 月 14 日(金) 19:00～
渋谷エクセルホテル東急

2007 年度(2007 年 10 月 1 日～2008 年 9 月 30 日)活動報告

- '07.11.02～03 柏苑祭に参加
- '07.11.03 第 1 回理事会 ①校名変更に関する緊急理事会
- '07.11.16 第 32 回総会 於 渋谷エクセルホテル東急
第 1 号議案～第 4 号議案 全て原案通り承認されました
懇親会 於 渋谷エクセルホテル東急
- '07.12.01 第 2 回理事会 ①校名変更に関する意見集約
- '08.02.07 第 3 回理事会 ①校名変更への対応 ②年間スケジュールの確認 ③柏発行報告(発行見合わせ) ④卒業式の参列 ⑤新入会会員人数の報告
- '08.03.01 高校卒業式に出席(阿部会長)

- '08.04.07 中学入学式に出席(神田事務局長)
- '08.04.07 高校入学式に出席(梅田副会長)
- '08.04.09 第 4 回理事会 ①校名変更への対応 ②企画検討委員会からの提案 ③柏発行報告 ④球技大会等への対応
- '08.06.04 第 5 回理事会 ①校名変更に関する意見書作成のための意見調整 ②「柏」47 号(3 月発行予定)の発行を 10 月へ延期
- '08.08.06 第 6 回理事会 ①学校側への同意書、承認書の調整と打合せ日程調整 ②校名変更への対応
- '08.10.01 第 7 回理事会 ①学校側への承認書、意見書提出の報告 ②同窓会規約改正箇所の確認と承認
その他必要に応じて、理事が随時集まり検討事項の精査等を実施した

2007 年度(2007 年 10 月 1 日～2008 年 9 月 30 日)決算報告

●一般会計報告(収入の部)

科目	予算額	決算額	内 訳
入 会 金	750,000	261,000	55 期生 87 名
年 会 費	1,500,000	819,000	55 期生 87 名、その他 186 名
引 継 金	3,783,405	3,783,405	前期より
雑 収 入	1,000	3,994	預金利息他
合 計	6,034,405	4,867,399	

●一般会計報告(支出の部)

科目	予算	決算	内 訳
会 議 費	120,000	130,977	理事会 6 回
交 通 費	100,000	81,000	
総 会 費	200,000	150,440	
「柏」制作費	30,000	0	
通 信 費	1,000,000	677,450	「柏」46 号(@ 80 × 8,500) 他
印 刷 費	700,000	403,160	「柏」46 号(9,000 部) 他
発送アルバイト費	200,000	116,000	「柏」46 号発送アルバイト
事 務 費	40,000	41,655	
事務局活動費	200,000	0	
同窓会賞費	80,000	50,000	
小委員会費	25,000	3,560	
名簿整備費	50,000	30,000	名簿管理アルバイト
柏苑祭費	30,000	25,000	
H P 制作費	500,000	0	
会員交流補助費	40,000	0	
予 備 費	100,000	0	
繰 越 金	2,616,405	3,158,157	
合 計	60,34,405	4,867,399	

第 32 回総会決算報告

科目	収入額	支出額	内 訳
会 費	65,000	@ 5,000 × 13	
用 品	3,046		
懇 親 会 費	212,394		
総会援助金	150,440		
合 計	215,440	215,440	

繰越金内訳

定期預金口座	641,312 円
貯蓄預金口座	652,745 円
普通預金口座	302,787 円
郵便振替口座	1,118,788 円
現 金	442,525 円
合 計	3,158,157 円

上記の通り 2007 年度の会計報告を致します。

2008 年 11 月 14 日 会計 上高正義 ㊟ 今井章久 ㊟

会計監査報告

上記、会計内容を監査の結果、正しく表示、掲載されていることを認めます。

2008 年 11 月 14 日 会計監査 白井 康雄 ㊟



懇親会風景

2008 年度(2008 年 10 月 1 日～2009 年 9 月 30 日)予算案

●収入の部

科目	予算額	内 訳
入 会 金	750,000	56 期生 250 名
年 会 費	1,500,000	56 期生 250 名その他 250 名
引 継 金	3,158,157	前期より
雑 収 入	1,000	預金利息
合 計	5,409,157	

●支出の部

科目	予算額	内 訳
会 議 費	120,000	理事会 6 回
交 通 費	100,000	理事会
総 会 費	200,000	総会援助金
「柏」制作費	30,000	編集委員会 2 回
通 信 費	1,000,000	「柏」47 号(@ 80 × 8,000) 「柏」48 号(@ 80 × 3,000) 他
印 刷 費	700,000	「柏」47 号 9,000 部 ¥300,000 「柏」48 号 9,000 部 ¥200,000 封筒他
発送アルバイト費	200,000	「柏」発送アルバイト
事 務 費	40,000	
事務局活動費	200,000	
同窓会賞費	80,000	
小委員会費	25,000	
名簿整備費	30,000	名簿管理アルバイト
柏苑祭費	30,000	
H P 制作費	500,000	
会員交流補助費	40,000	武蔵クラシック補助
予 備 費	100,000	
繰 越 金	2,014,157	
合 計	5,409,157	

理事会報告



事務局長 安藤 友二(二十五期)

事務局長に就任した安藤です。今年度のむさこう同窓会理事会からのお知らせ

です。

本年度の同窓会の年間スケジュールが以下のように決まりました。
 第一回 二〇〇八年十二月二日
 第二回 二〇〇九年二月四日
 第三回 二〇〇九年四月一日
 第四回 二〇〇九年六月三日
 第五回 二〇〇九年八月五日
 第六回 二〇〇九年十月七日

同窓会規約が変更されましたので、同窓会ホームページ <http://musakou.org>にてご確認ください。

◆二〇〇九年一月十七日 新年会が武蔵工業会館(柏クラブ)にて開催されました。

新年会では、学校側から依頼のあった企業見学について話し合われました。前向きに取り組むということ

で、現在三月に同窓会理事が学校訪問を行い、四月の理事会では、学校側から担当者が出席して頂く運びになりました。社会人である同窓会会員には、母校の後輩の為に協力をお願いいたします。

◆武蔵クラシック開催については、今年度は、二〇〇九年十月十一日(日曜日)に開催日が決まりました。奮ってご参加下さい。参加者不足の場合は、中止となりますのでご了承願います。

連絡は、武蔵クラシック担当の二十四期生宮原氏へ下記の電話、又は、メールでお願い致します。電話：〇三―三七七〇三―一五四一 e-mail: miyahara0086@kandeco.jp (最終ページを(覧下)ください。)

◆5月中旬 中・高球技大会における同窓会賞贈呈について。

過去の体育祭では仮装行列優勝クラスに同窓会賞を贈呈しておりましたが、現在は球技大会の優勝チームに贈呈しています。しかしながら①何時 ②誰にとり報告がなされていない状況です。同窓会賞自体の意義及び位置付けを明確にする必要があるということ

で、今後は、柏苑祭で同窓会の部屋で理事から、受賞者に直接授与する運びとなりました。但し、受賞者をどのように選定するかは、未だ決定しておりません。案として、柏苑祭で良かったものをアンケートで選ぶ、企業見学のレポートで良かったものを理事会で選定して授与する案が出ています。

◆二〇〇九年三月一日の高校卒業式及び四月の中学・高校の入学式には、神田会長が同窓会代表として出席。

それに伴い、神田会長が、一月に学校へ新任の挨拶に行きました。その時に企業見学について話し合いが行われました。

◆二〇〇九年十一月十三日(金曜日)にむさこう同窓会の総会と懇親会が、行われることも決定しました。

◆SNSの立ち上げについて。現在同窓会ホームページが、同窓会での活動を活性化するためにSNSを立ち上げて同窓会

員にメールマガジンを発行できるようにし、クラブの立ち上げ等をした人にも、SNSを利用出来るようにする運びとなりました。

◆昨年に柏三水会(武蔵工大出身者の経営者の団体)主催による芥川賞受賞者の吉目木氏の講演について企画委員会より報告があり、大変好評で学部長等も出席し、当日、販売した吉目木氏の本も完売であったとのこと。

◆今後の理事会の開催場所について 理事の中には、自由ヶ丘では不便で出席しにくいという意見もあり、検討していくこととなりました。但し、基本的には、自由ヶ丘の柏クラブが主な開催場所となります。

◆新役員名簿は最終ページに掲載しております。

◆今年度は、色々と変化の多い年ですが、今後ともむさこう同窓会を宜しくお願いいたします。



言葉とその意味



十四期 織田 純

人は言葉と意味の大海原の中を漂流しているといっても過言ではない。

言葉と意味はお互いの共通認識のもとで成り立たなくてはならない、という前提がある。

「未曾有(みぞゆう)」「踏襲(ふしゅう)」「煩雑(ひんぱん)」「怪我(かいが)」…我が国の最高指導者である内閣総理大臣、ならびに自由民主党総裁なる人物が、言葉とその意味が乖離しているのか崩壊しているのかわからないが、一般的な共通認識は成り立っていないのが現状である。

しかし、人のことを笑ってはられない。日本語は極めて難解であり、古代から我が国にはこのような言葉と意味を誤認する傾向にあり、それを防ぐためにも民衆の共通認識を深めるためにも教育の一環としてとられていたものがある。

民俗学者、柳田國男を持ち出すまでもなく、諺であり、童謡であり、民話でありさまざまな郷土芸能のなかに正確な言葉の伝承が内包されていたのである。

しかし、戦後民主主義教育の御旗のもと近代化一辺倒のアメリカ盲従政策の弊害が、一国の首相の脳害が生まれたといっても過言ではない。

さまざまな例があるが、ここに具体例として「諺」における正確な意味の伝承をご紹介します。

<あくせんみにつかす>

硬貨にツバをつけて、額にくっつけると、ペタリとくっつくものと、はがれ落ちるものがある。はがれ落ちるものが悪銭である。

現在流通しているものでは一円、五円以外がそれと言えよう。財布の中にすぐに一円、五円がたまってしまふのは、それが良銭だからである。もちろん政府は、消費税というものを作って、その良銭までも我々からまきあげようとしている。

<おいてはこにしたがえ>

何を「負う」のかとよく聞かれるが、言うまでもない、借金である。

つまり借金を背負ってしまったら、子供にまかせると言っているのだ。赤字国債発行の智慧は、実はここから出ている。

<れきしはくりかえす>

「溺死は振り返り、溺死は繰り返す」と言われている。

言うまでもなく溺死の場合、なぜか岸のほうを「振

り返」って助けを呼ぶのである。轢死の場合、流行性が強いので毎日のように鉄道各線が止まっている。

<ゆめまくらにたつ>

女房に逃げられて、ひとり寝の侘びしさをかこつ男が、枕を抱いて寝ていたところ、夢に女房があらわれ思わずその気になってしまった、という話。もちろん新婚夫婦の場合であろう、長年連れ添ったもの場合だと夢にも出ない。

<つきとすっぽん>

性的用語として一般的に用いられている。

「つき」は「突き」であり、「すっぽん」はその「音」であり「抜く」ことである。性交時の動作でありながら、相手に与える影響には格段の差があることを言った諺なのである。

<そうこうのつま>

似たようなものに「早漏の夫」というのがあり、おおむね対で用いられる。

「そうこう」の解釈も専門家の間ではさまざまな解釈があり、家計を助けるために倉庫会社にパートに働きに出たとか、ガミガミうるさいので倉庫に閉じ込めたなどあるが一般的には「ぬかみそ」のことであるから、糠床をかきまわして、ナスやキュウリをつかみ出したとたん夫のほうは漏らしてしまうから、「何をかいわんや」ということになる。

<にんげんはかながえるあしである>

これもまたまた色々な解釈がある。

その①…人間はカンガルーの足である

その②…人間はキャンギャルの足である

などなど諸説紛々あるがさっぱり意味不明である。しかし「パスカル」の言った言葉というだけで、何か深い意味のあるものであるらしい、と信じてしまう人間の悲しさがある。

<かほうはねてまで>

上方のお楽しみは接吻である。これは立っていても出来る。しかし、下方のお楽しみということになれば、やはり寝たほうがいい。

「立っていても出来る」というものもいるが、これは最も一般的な体位のことを言っているのだ。

童謡にも奥深いものがある。

♪～こがねむしーはかねもちだー……で知られている国税庁庁歌。あのような小さな虫ほど金を持っているのだと税徴収担当官に対して鼓舞し、民衆いじめの代表例。

大金持ちには目もくれない。

……今後も民衆の中にも的確なる共通認識を植え付けるためにも我々は、先人たちの智慧に学び言葉の本質に迫らなくてはならない…… 合掌

二〇〇八年度

『日本建築学会賞』受賞に輝く

母校卒業（昭和五十七年三月卒・二十九期生）で
おられる手塚貴晴（現・武蔵工業大学准教授、手塚
建築研究所代表）と奥様でおられる由比さんと、建
築設計作品「ふじようちえん」が二〇〇八年度日本
建築学会賞を受賞されました。この日本建築学会
賞作品は一九四九年以来、主として国内に竣工し
た建築の単独の作品であり、社会的・文化的見地か
ら極めて高い水準が認められる独創的なもの、あ
るいは新たに建築の可能性を示唆するもので、時
代を画すると目される優れた作品に対して贈られる
権威の有る賞です。なお、今回の受賞では武蔵工業
大学・岩崎堅一教授の「武蔵工業大学新建築学科棟
#4」が同時に選ばれました。



手塚貴晴・由比こ夫妻

● パネルディスカッションII （敬称略）

岩崎 学びの場として
の人生の最初の段階
である「幼稚園」とし
ての作品ですが、例
えれば飛行機は「エ

ンジン」に頼ります。グライダーでは「風や気流」
により自力で大空を舞い飛ぶことになりませんがそ
の姿がすこぶる美しい。今の子供たちの「学びの
場」は自力で学ぶということの舞台が少なくなっ

ているので、手とり足とり「教えられる」という
受身の授業が多すぎると考えられます。

大学においてでも卒業のテーマに取り組み時
も、「自由に作りなさい」と指示するもの「どう
したら良いのか」と、私たち教授に聞きに来ると
いうこともありますね。

手塚 与えられたものは直ぐに 紛失したりしま
すが、拾ったものは大事に無くさずにとって置
くという心理ですね。幼児にとっては教育の場は
その子供たちに何かを「用意しない」というこ
とも必要なのです。

建築というものはその時代にふさわしい建築
があります。昔から生き残っている建物はそれ
なりの良さがあったからだけの話です。

今の子供たちが、その時代の建物に親しみ易
さがあるということ、その時代ではそれで良か
ったかもしれないが、そうではなく、その時代に
おいてその建築または建築家が込めたたくさん
の「想い」があるのです。天窓の楽しさ。世界が
いつ時変わる、等です。

幼児にとつての学びの場は「楽しみの場」であ
るべきです。

建築とは社会のいろいろなものを巻き込んで
楽しませる要素が不可欠であって、地球の様な
総合力を持つているのが素晴らしい建築なので
しょう。

岩崎 建築を施工するという実務は、ほんの一瞬
の「出来ごと」なのですが、そのあと何十年も
の間は、この建築を「生かしてゆく」というこ
とが重要だと思えます。いかにその施設が可愛
がられるかということは、特に大事なことなので

はないでしょ
うか。それを知
っているクラ
イアント（発注
者）なのかどう
か。設計者にと
つては大事な
ことだと思
います。

由比 建築を人

が利用し、使
切っていくこ
とで、その設計
の良さが増し
てゆく。また、
その逆もあり
ますね。建物
自体の外観は
変えていないが、建物内部では今現在、住んでい
る人の工夫において、その建物が「成長」して
いるということを感じることが多くあります。

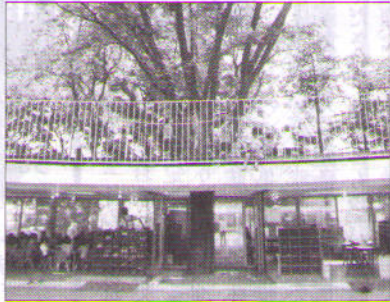
建物を造るときに設計者と発注者との「想
入れ」が大事なのだと思います。

手塚 建物を造るときには、その設計者の「らし
さ」が大切であると思えます。建築家は自分の
スタイルを変える必要はないと思えますが、デ
ザイン的にどう造れば他人の評価を得られるか
を気にして、いかに違うものを造るかは以外に
簡単なことなのです。

建築家自身の「立ち位置」がしっかりしてい
ることが特に大切であるとともに、反対に建築



受賞作品選考理由



「ふじようちえん」

手塚貴晴+手塚由比

ふじようちえんは、東京の郊外に広がるのどかな環境の中にあつて、忽然と楕円の姿を現す建築である。しかし、足を踏み入ると、建築そのものの存在が消えるほど、エネルギーな600人の園児と彼らを育てている集団が出迎えてくれる。窓ともドアとも壁とも言えない建具が、屋根と地面の間をおおらかに仕切っている。何処がどうなっているのかを考える暇もなく、お祭りの群集に紛れ込んだような熱気に包まれ圧倒される。めまいがするほどの躍動感である。それが故に、屋根全体を第二の園庭としたウッドデッキの上に立った時の、伸びやかな広がりにはすがすがしい。この建築が持つ際立った二面性を、高々2mほどのレベル差で感じることができるのである。同時に、全体を単純なエレメントに凝縮した、建築作品としての力強さを感じさせている。

そもそも、建築は自然の驚異から人を守って、人が集まる場の広がりを生み出すものである。特に、幼い子ども達が多く集まる幼稚園や保育園や学校といった施設は、集うものの過半が、弱者として必要以上に過敏に扱われがちである。さらに、少子化の時代に突入した現在、親達のわが子への関心はエスカレートし続け、怪我や汚れを成長の証として喜ぶ余裕もない。預かる側も危険回避にエネルギーを燃やし、どこか本末転倒な議論が繰り返されている。そんな社会に対して、建築に何ができるのかと問われるかもしれないが、この幼稚園はその一つの解を与えてくれているようである。寒ければ走り回って体を温め、日向ぼっこすればよい。暑ければ、木陰で涼んで水を飲み、風にふかれていればよい。それを可能にする手立てとして建築は存在していればよい。ふじようちえんは、そんな空間を用意している。

機械を使って環境を制御するのではなく、「人が動いて心地よい居場所を見つけたらいいじゃないか」とでも言っているような単純な建築が、今の時代にこそ評価されるべきである。高気密高断熱だけが地球環境への配慮ではないことを、そして忘れかけていた人間の感覚を思い出させる建築である。

なんといっても、屋根の上を無我夢中に走り回る園児の姿は、幼い子どもの本能を呼び覚ましていて。そのような感性を伸ばす幼稚園の存在は、園を運営する関係者の熱意と実践の上にあることは言うまでもないが、人と建物の両輪がそろった園舎であるからこそ、優れた建築なのである。よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。

家が将来を予測し、その時にはこれが必要だという未来を見るかということには建築家の本来のスタイルではないのでは。と思います。
「私の信じる建築とは何か」を自信を持って造ることが大切なのではないでしょうか。
岩崎 建築家がどのような素晴らしい設計図を描いても、その図面を読み取る必要があり、施工会社並びに実際の現場での物造りのプロの職人さ

んが、その図面を読み取る力がなければ何の意味も持たず良い建築物は完成しないのです。どの様にそれらの人達に伝えることができるかが最も大事なことであり、その作品の出来映えに大きな影響を与えます。
したがって設計者が手配師になったときには、その建築作品は崩壊されますね。その点「ふじようちえん」はとても楽しい作品だと思いますが。

施主 極端な話ですが、今の子供たちは、マンション住まいで、母親の運転する自家用車の後部座席にのって友達のマッシュルームに遊びに行く。雨に降られ濡れるという機会も得られずです。「ふじようちえん」は毎日の様に屋根の上を含めて雨、風、太陽、緑、空気と友達になることができるということでは、智恵と感性を育て子供たちに頗る貢献していると思います。(取材・清水)

第13回武蔵クラシック 開催のご案内

平成15年7月開催(富士ゴルフコース・山梨県山中湖)の第12回以来、思うように開催できませんでしたが、同期・同窓の仲間・諸先生とプレーを楽しみたいと思います。
是非、ご参集下さい。

- 開催予定日
平成21年10月11日(日)
- コース
未定(ご推薦下されれば幸いです)
- 募集人員
定員20名(5組)

同窓会懇親ゴルフ実行(委)
宮原 茂(24期生)
連絡先 TEL.03-3703-1541
メールアドレス
miyahara0086@kandec.co.jp

同窓会新役員名簿

(2008年10月1日～2010年9月30日)

会 長	21期生	神田 清人
副 会 長	14期生	清水 茂 (「柏」編集委員長兼任)
事務局 長	25期生	安藤 友二
事務局 次長	26期生	小泉 武司 (事務局担当)
事務局 次長	27期生	徳山 長生 (総会・懇親会担当)
事務局 次長	24期生	宮原 茂 (武蔵クラシック実行委員長)
事務局 次長	13期生	中澤 宏 (柏苑祭担当)
会 計 理 事	12期生	今井 章久
理 事	7期生	岩本 征義
理 事	8期生	柴 孝昭
理 事	14期生	阿部 俊夫
理 事	16期生	梅田 博夫
理 事	16期生	小林 英世
理 事	16期生	岡田 光夫
理 事	17期生	仲宗根 茂
理 事	19期生	塩満 守
理 事	20期生	松原 信利
理 事	21期生	長谷部 伸一
理 事	26期生	松原 信利
会 計 監 査	24期生	白井 康雄

編集後記

昨年十一月の同窓会総会において、今号巻頭文をお願いした新会長を初めとした新体制が確定しました。役員は各卒業期ごとに多少なりともバランスをとるの念願も。

同窓会誌「柏」も新体制発足とともに少しづつ編集の内容を斬新にと、どこかの国と同様に改革が求められています。そのことは日々責任者として自覚しております。少しご安心ください。是非とも読者の皆様には飽きのこない紙面たらんこと、並びに新鮮な情報を発信して行きたいと試行錯誤しています。

ぜひ武蔵校ホームページに「投稿」は機関紙「柏」の命です。全役員、理事に成り代わってご協力をお願い申し上げます。

日本建築学会賞を受賞の手塚さんの対談記事。抜粋なのですが、岩崎教授とのディスカッションは建築家としての本質が、本当におめでとございます。

小生、同窓生より情報をいただき受賞記念講演会へ。卒業生の一人として大変な名誉です。因に過去にこの賞を受けた作品としては京都会馆(第12

回・前川国男氏)、名護市庁舎(第33回・象設計集団他)、広島市近代美術館(第42回・黒川紀章氏)、国立劇場第50回・柳澤孝彦氏)、黒部市国際文化センター(第48回・新居千秋氏・本校14期卒業生)などです。何れ同窓会として柏苑祭で講演していただきます。お願いします。

さて、昨今の日本の経済・社会情勢はと問えば、水田町は霞が関の情報だけに意識的に頼り、振り回されている。「実態経済」に何故無関心・無知を装うのか?無関心を装うことで、俺たちが悪い訳ではない。とのアリバイ作りと選挙民向けの党利党略なのか?

国民にとっては塞がらない開いた口を無理矢理塞いだと思つたら、同時に「への字」に曲がつてしまう現象が新橋駅前報告されているとか。コップの中の嵐を装いマスコミを総動員させて視点を反らすのが頗る上手なことは、過去ウン十年の歴史が証明しています。

とは言え「派遣切り」の「当事者」再登場とは閉じた口が加速度をつけて百八十度回転する。美

容整形外科が繁盛するのも時間の問題である。

さらに「百年に一度」との触れ込みで喧伝されている「不況」は、米国発「サブプライム」に端を発したとの巷(特に国会周辺)の噂以前に、日本は赤字国債という国民からの借金八百兆円超えと言う後世への莫大なる「借金」を抱えてしまったことはご記憶の通りです。それ以前に残念ながら「破綻」しています。何でも他人他国の責任に押し付けるのは、女々しい限りである。

最低限の国難乗り切りの為の政策行動として歳出を減らし、減税して庶民の「ふところ」を暖め、消費を上向かせるのが世間一般の経済常識であることは明白です。租税特別措置等を見直せ。

納税者として怒りを持って立ち上がるべきです。正直言つてこんな記事は毎回書きたくありません。そんなこんなで企業も年度末決算期をいやでも迎えますが、貴方と貴方の会社は蓄えた知恵を振り絞る以外に得策らしきものはないのでしょうか? 今後も「同窓会」とともに機関誌「柏」を応援してください。投稿を含めて。(十四期 清水 茂)